

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育方針のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 3 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
- 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

2 中期的目標

1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現

(1) 基礎学力の充実と授業形態の改善

- ア 1年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を展開し、基礎学力を充実させる。
※生徒向け学校教育自己診断アンケートの授業満足度を毎年引き上げ、令和5年度には75%を達成する。(H30:70%, R1:66%, R2:68%)
- イ 普通教室(18教室)に電子黒板機能付きプロジェクターを設置した。今年度配備予定の生徒1人1台の端末と効果的に組み合わせることにより授業のICT化を進め、生徒たちが互いに協力して学び、その成果をアウトプットできるような授業形態の導入を進める。
※教育産業の実力診断テスト GTZ 値(国数英)を令和5年度までに2ポイント向上させる。(H30:D1+, R1:D1-, R2:C3+)

(2) 希望する進路の実現

- ア 大学・短大進学希望者の増加を踏まえ、進路ガイダンス機能を充実させる。
※令和5年度までに大学・短大進学率40%を達成する。(H30:26%, R1:34%, R2:28%)
- イ 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現する。
- ウ 将来に夢や志を持てるよう、自らの職業観・労働観の形成を重視したキャリア教育を行い、卒業時進路未定者を減少させる。

(3) 新カリキュラムへの移行

- ア 主体的対話的で深い学びを促し、生徒たちにとってよりわかりやすい授業形態の構築に向け、教職員研修や授業見学週間等を行い、授業力の向上を図る。
更に「観点別評価」のPTを更に活性化させ、令和3年度試行、令和4年度の導入に向けて学校全体で更に理解を深める。

2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成

(1) 服装・遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導や教育相談を通して、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。

- ア 学校目標である「時を守り」の徹底を図り、遅刻指導体制を充実させ遅刻数を大幅に減らす。
- イ 課題を抱える生徒についてSC・SSWと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、支援委員会を中心に指導方針を明示する。
※遅刻数(大小合わせて)を令和5年度までに4500以下にする。(H30:4982回, R1:5608回, R2:5035回)
※皆勤者数を令和5年度までに170人を維持する。(H30:204人, R1:131人, R2:175人)
※学校教育自己診断アンケート(生徒)の「悩み事の相談に乗ってくれる」の肯定的回答を令和5年度までに70%を達成する。(H30:58%, R1:54%, R2:63%)

(2) 特別活動等の活性化

- ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるよう支援する。
※令和5年度までに部活動加入率50%を達成する。(H30:42%, R1:40%, R2:45%)
※学校教育自己診断アンケート(生徒)の「学校行事が楽しい」の肯定的回答80%を達成する。(H30:77%, R1:71%, R2:77%)
- イ 学年行事や、部活動、各種検定等の優秀者に対し、式典等の際に「守口東賞」(タオル)を贈り、特別活動や検定試験への参加を促す。

(3) 防災体制の見直し

- ア 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。

3 地域に愛される魅力ある学校づくり

(1) 情報発信と外部組織との連携

- ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
- イ 教育アプリ、ホームページ、メールマガジン、校内ディスプレイ、正門横電光掲示板等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信し、生徒・保護者・地域からの信頼・協力の獲得に努め、中学生が「行きたい学校」となる。
※学校教育自己診断アンケート(保護者)の「HPやメールマガジンで学校の様子がよくわかる」の肯定的回答75%を達成する。(H30:67%, R1:68%, R2:71%)

(2) 国際交流の推進

- ア 海外研修や授業等を通して多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。
※令和3年度から国際交流委員会を立ち上げ、令和4年度には希望者に対し韓国への語学研修を実施する。

4 機能的な校内体制の整備と働き方改革の推進

(1) 校務の効率化

- ア 電子メール・連絡掲示板・レターケース等の活用により校務を効率化させ、情報共有の機会を更に増やし、会議時間の短縮を図る。
※学校教育自己診断アンケート(教職員)の「職員会議等の回数や時間は適切に行われている」の肯定的回答向上をめざす。(R2:70%)

(2) 職場環境の改善

- ア 安全衛生委員会を更に活性化し、教職員間の意思疎通を円滑にすることで、縦・横の風通しの良い職場環境の実現をめざし、職場におけるハラスメントの撲滅を図る。
※ストレスチェックの分析結果における「職場の健康リスク」値を80(最良)に近づける。(H30:103, R1:97, R2:90)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員「授業力向上のため、工夫・改善に努めている」肯定率84%となり、前年度73%から向上した。観点別評価及び生徒1人1台端末に関する研修会や研究授業を重ねて実施してきたことで、高い結果となったと考える。 ・生徒「いちばん望む授業形態」については、①高校生として基礎学力が身につく授業、②生徒に応じて授業レベルやスピードを調整する授業、③進路希望が実現できる学力を高める授業の順(①>②>③)であった。教職員において授業で気を付けていることは①>②>③の順であった。ただし、生徒において③が23%、保護者は③>①>②の順であったことに留意する必要がある。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」60%、保護者「子どもが困った事や悩みがある時、先生は相談に乗ってくれる」70%であった。コロナ禍でストレスや不安が広がる中、カウンセリングマインドを持って、状況に応じてSC・SSWとも連携しながら、より丁寧に相談に乗っていく必要がある。 ・生徒「生活指導は先生が協力して適切に行っている」84%であり、生徒から理解を得て行っていると考ええる。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員「緊急の課題に対して迅速な対応ができています」は78%となり概ね良好であるが、教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は49%に留まった。新型コロナなど至急の対応が必要な場面が多い1年ではあったが、各部署の連携をバランスよくとることは今後の課題である。 	<p>第1回(9/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全HR教室のプロジェクター、「全教員が全力で」等の配慮は素晴らしい取組みである。 ・先生方の地道な努力、きめ細やかな生徒への配慮を感じる。ICT化が進んでいるようだが、一方でついていけない家庭もあるのでは。そのような差異にどう対応するか。 ・「勉強したい」「努力したい」生徒が守口東を選んでいる。規範意識の向上も含め、さまざまな取組みをしてもらえるのはありがたい。今後も続けてほしい。 ・オンライン学習は環境が平等でない。環境が整わない家庭は登校させてはどうか。 <p>第2回(12/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響が教育現場にはさまざまあり、新しい発想で進める必要がある。これまでとは形が変わっていく中で、検定受験、部活動加入など健闘していると感じる。 ・オンライン授業と対面授業との学力定着の差異はどのような状況か。 ・生徒につけたい力研修で得たものを、観点別学習評価にどのように繋げていくか。 ・スマートホンの校内使用ルールはどのようにしているのか。 <p>第3回(2/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像の5で扱っている「他者理解や思いやりの心」は、ポストコロナ・ウイズコロナの社会で求められていることである。 ・遅刻数について、大遅刻と小遅刻の定義の記載が加わったことで、状況が明確になった。遅刻をなくす・減らすことは理想だが、遅刻をしてでも登校していることは大切。 ・授業におけるICTの効果的な活用の推進を成し遂げていただきたい。その際、教職員の尺度でなく生徒の尺度で企画して欲しい。生徒と教職員が集まって企画委員会を開催してはどうか。 ・多くの項目で学校での取り組み状況が好転していて、良い学校に向けて取り組んでいるとわかる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	A 今年度の重点目標	B 具体的な取組計画・内容	C 評価指標[R2年度値]	D 自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	<p>(1) 基礎学力の充実と授業形態の改善</p> <p>ア 習熟度別少人数展開授業の実施</p> <p>イ 授業のICT化推進</p> <p>(2) 進路実現</p> <p>ア 大学・短大進学に向けて進路ガイダンス機能の充実</p> <p>イ 希望する進路の実現</p> <p>ウ キャリア教育</p> <p>(3) 新カリキュラムへの移行</p> <p>ア 新カリキュラムの導入と観点別評価の理解</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年国語・英語は1クラス2展開、1年数学は2クラス3展開授業を行う。</p> <p>イ 「授業見学週間」に全教科でICTを活用した授業を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 進学講習を継続的に行い、大学・短大受験への意識を高める。</p> <p>イ ・英語、漢字、情報等各種検定の受験を呼びかけチャレンジ精神を養い、将来の進路に生かす。</p> <p>・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教員が全力で生徒をサポートする。</p> <p>ウ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考えさせる機会を設ける。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・首席を中心に「授業見学週間」「授業改善研修」を実施し、学校全体で授業改善に取り組む。</p> <p>・観点別評価PTから各教科に評価方法の検討を依頼し、研修において情報を共有する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 少人数授業アンケートの肯定的回答を全科目で維持 [国：89%, 数：91%, 英：91%]</p> <p>イ ICTを使った授業実施のアンケート肯定的回答70%以上[64%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 大学・短大進学者32%の達成[28%]</p> <p>イ 3検定の受験者数を10%増やす。 [英検：18、漢検：59、情検：113]</p> <p>(3)</p> <p>ア ・自己診断「授業力改善」の肯定的回答75%[73%]</p> <p>・一学期末までに各教科で検討し、年度末までに試行実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 肯定92% [国：90%, 数：89%, 英：96%]となり、前年度の90%よりも上昇した。国・数の変化は少しであったが、英語の肯定率は非常に高くなった。外国語指導員のTT形式授業で実施した英語は、生徒の状況に合わせた教材により授業を進めたこと、少人数であることを活かして効果的にできる方法で、英語会話を実践したことがこの結果につながったと考えている。(○)</p> <p>イ ICT活用授業実施についてプロジェクター、生徒1人1台端末などICTを授業で活用した教員比率は70%。オンライン授業への取組みも進んだ。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 大学・短大進学者31%であった。今回、大阪教育大学合格をはじめ、大学受験に粘り強く挑戦し合格している。今後も幅広い対応で、生徒の力を伸ばしたい。(○)</p> <p>イ 英検：16、漢検：69、情検：81で合計166人13%減。受験費用の負担増などにより、受験者数は伸びなかったが、情報処理検定で1級や準1級の合格が出るなど頑張っている。上位合格者を表彰し、副賞のタオルは12月に新デザインにした。次年度も表彰を継続し、講習を行うなど、受験を奨励する。(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア ・「授業力改善」84%であった。研究授業、授業見学週間、ICT活用研修等さまざまな取組みを実施。(◎)</p> <p>・一学期に観点別評価に係る研修、更に教科ごとに評価方法の検討を実施。試行実施、授業見学、観点別評価の見取り方研修を行った。(○)</p>
2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成	<p>(1) 規範意識の定着</p> <p>ア 遅刻指導体制の充実</p> <p>イ 課題を抱える生徒対応をSC等と連携</p> <p>(2) 特別活動等の活性化</p> <p>ア 各種行事や部活動の活性化</p> <p>イ 「守口東賞」の贈呈により、特別活動参加促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 登校時に生活指導部や担任が門に立ち、服装指導や遅刻指導を行い、遅刻者数を減らす。</p> <p>イ 支援委員会を中心に、SC・SSWを活用し、寄り添う姿勢を大切にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 顧問体制の充実と、新入生への部活動紹介・体験を充実させ、加入率を向上させる。</p> <p>イ 終業式・始業式の際、校長から賞状と守口東賞を贈呈する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・年間(大小)遅刻者数4750以下を達成[5035]</p> <p>・皆勤賞150人を維持 [175人]</p> <p>イ ・自己診断(生徒)「悩み事を相談できる」の肯定的回答68%[63%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 部活動加入率48%の達成 [45%]</p> <p>イ 部活動表彰や検定合格者を毎回10人以上贈呈する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・本校独自の小遅刻(学年ごとに早めに設定した門遅刻)2326、大遅刻(1限遅刻)3174で合計5500。次年度は一層粘り強く指導に努めたい。(△)</p> <p>・皆勤賞102人。条件を前年度より一部厳しくしたことも一因。受賞した生徒を称えとともに、次年度は増えるように奨励したい。(△)</p> <p>イ ・「悩み事を相談できる」60%。コロナ禍でストレスや不安が広がる中、相談が増えるとともに重い内容となっている。カウンセリングマインドを持って、より丁寧に相談を行っていききたい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・1学期に新型コロナの影響で部活動がほとんどできない時期が続き、1年生の加入が進まず36%。次年度は1年生の勧誘で加入率の向上を図りたい。(△)</p>

府立守口東高等学校

	(3) 防災体制の見直し	(3) 守口市危機管理室と連携し、災害マニュアルを再点検し、教職員に対応を周知する。	(3) 教職員でマニュアルの読み合わせを実施。[0回]	イ ・部活動で入賞した生徒や検定で上級合格した生徒が多く18人/回(除皆勤)に贈呈した。(◎) (3) 災害マニュアルの再点検が完了し、担当役割毎に読み合わせを1回実施(○)
3 地域に愛される魅力ある学校づくり	(1) 情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携 イ 情報の発信と、中学生が「行きたい学校」となる。 (2) 国際交流の推進 ア 韓国との語学交流を進める。	(1) ア ・地元中学校との授業見学等の連携や支援学校との交流を進める。 ・大学からの出前授業やこども園との連携を更に進める。 イ ・ホームページの学校行事や部活動の更新頻度を上げ、1日のアクセス数を向上させる。 ・玄関横電光掲示板の有効活用を図る。 (2) ア 国際交流委員会を中心に企画を進める。特別非常勤講師にも協力を求め、R4年度からの実施をめざして「韓国・朝鮮語」の授業選択者に希望を募る形で進める。	(1) ア ・地元中学校への出前授業3校実施[0校] ・支援学校との交流1回[0回] ・大学出前授業参加者数を増やす。[79人] イ ・アクセス数1日平均100件を達成する。[80件] ・自己診断(保護者)「HPやメルマガで学校の様子がわかる」の肯定的回答75%達成[71%] (2) ア 二学期末までにWEB交流を行い、年度末まで語学交流の概要を決定する。	(1) ア ・中学校出前授業3校実施。あわせてコロナ禍でも中学校と支援学校に授業見学の連携ができたことは良い取組みとなった。次年度も継続したい。(○) ・支援学校との交流1回(○) ・高専大連携としての出前授業を実施し84人が参加し、モチベーション向上に繋がったと考える。(○) イ ・行事や学校生活のこまめな掲載を心掛けた。アクセス数193件/日(◎) ・「HPやメルマガで学校の様子がわかる」は77%。生徒の活動写真は不鮮明に加工した小さなものを掲載しているが、許可を得た上で鮮明なものを掲載するとさらに生徒の様子が伝わると感じる。(○) (2) ア 海外での新型コロナの広がりを考えてR4年度からの渡韓は見送り、韓国の生徒とWEB交流やプレゼント交換、SNS交流を行った。次年度はWEB交流以外に、韓国にゆかりのある方を地域から招いて直接的な交流を行うことも考えたい。(○)
4 整備と働き方改革の推進	(1) 校務の効率化 ア 会議時間の短縮 (2) 職場環境の改善 ア 風通しの良い職場環境の実現	(1) ア 運営委員会を2時間連続で確保し、職員会議での議事を精選し、時間短縮を図る。「教職員の皆さんへ」を年間24号発行し、通知等を周知する。 (2) ア 安全衛生委員会の更なる活性化を図り、各種 harassment の相談窓口であることを周知し、教職員からの要望を吸い上げ、改善を図る。	(1) ア 自己診断(教員)の「職員会議の回数や時間が適切」の肯定的回答75%を達成。[70%] (2) ア ストレスチェック「職場の健康リスク」値を88ポイントに向上させる。[90ポイント]	(1) ア 「職員会議」84%。運営委員会で検討・調整を丁寧に行って議事を精選するとともに、単なる連絡は掲示や「教職員の皆さんへ」、携帯連絡網も活用した。(◎) (2) ア 「健康リスク」86ポイント。全国平均が100であり、値が低いほど望ましい。上司・同僚からのサポートが多いことがこの結果に結びついているため、次年度もサポートの維持に努めたい。(◎)